

協働のまちづくりを！

これからまちづくりを考える

国の方針により、地方分権時代を迎えつつあります。この地方分権というのは地域の特性にあったまちづくりを推進していくことが重要になってきています。

わたしたちが住んでいる伯耆町を魅力的な「まち」、住みやすい「まち」にしていくには、行政だけでまちづくりを行うのではなく住民と協力して考えていく必要があります。

今月号では、この「協働」について考えていきたいと思います。

協働って？

最近各自治体で「協働」という言葉をよく聞きます。なかなか聞きなれない言葉ですが、この協働とは「みんなで協力し合う」という意味です。ここでいう協働というのは、住民（地域組織や住民活動団体など）と行政が

協力し合って伯耆町を運営していくということです。そのためには、

住民と行政が対等な立場を保ちながら信頼関係を深めていくことが重要です。そうすることで、自分たちで考え、つくり、守り、育てていくという意識が高まり、伯耆町への愛着が湧き、住みやすい「伯耆町」になっていきます。

なぜ、今協働が必要なの？

まず、社会的に地方分権、地方自立の時代を向かえ、分権型社会が構築されつつあります。

これは、今まで国などで決められた方針をただ行うだけではなく、伯耆町でも政策を考え、伯耆町の特性にあったまちづくりを推進していくことが必要となってきました。

また、少子高齢化の急激な進行や経済の長期低迷により社会経済情勢は大きく変化しています。こういった中で、住民ニーズが多様化、複雑化してきており、公平で一律な行政サービスの提供だけでは対応できないようになってきました。伯耆町でも特に過疎化、少子高齢化、核家族化など様々な要因により住民コミュニティ意識が薄れ、地域で

の自治活動機能が低下してきて

います。さらに、行政の財政運営が非常に厳しい状況になっており、抜本的な行財政改革が求められています。

これらのことから、今後の行政運営において行政が一方的にサービスを提供する構造から、住民と行政が役割分担をしながら伯耆町をともに作り上げていく仕組みが必要となってきています。

協働の取り組み状況は

伯耆町では、平成十七年度に総合計画を策定する際に住民公募による「まちづくり委員会」が開催され、さまざまな意見が出されました。そのほかにも「地域交通会議」や「みんなの健康・福祉を語る会」など住民公募による委員で構成する会が増えて

きています。

また、一部の地区で住民と行政の懇談会を開催することにより、住民の意見を聴いたり、行政に対する理解を深めてもらうような取り組みを進めています。

さらに、地域の活性化には地域リーダーの育成が重要なことから、本年度「ほうきまちづくり塾」を開催し、協働への理解、地域課題の検証など行いました。

また、協働を推進する目的から、二回の「まちづくり講演会」を開催し、住民主役のまちづくりの気運を盛り上げました。

平成十八年度の取り組み状況

ほうきまちづくり塾
自薦や各集落からの推薦などによる伯耆町内の住民十
四名で構成され、講演やグ



ループワークを通じて、参加者がまちづくりについて考え、語り合う機会をつくり、地域リーダーを育成しようと開催されました。

第一回はオリエンテーション、第二回は鳥取県が主催する「鳥取自立塾」に参加し、全国的な先進団体の代表者による講演会等に参加しました。第三回は鳥取県協働推進課の渡辺課長を講師に招いて



ワークショップの様子